

## ステロイド吸入療法中に生じた咽喉頭真菌症による咳嗽増悪症例

藤田保健衛生大学 医学部 耳鼻咽喉科 内藤健晴、齋藤正治、伊藤周史、三村英也  
国立病院機構豊橋医療センター 耳鼻咽喉科 馬場 錬

今回、喘息にてステロイド吸入療法中に咽喉頭真菌症が出現し、咽頭痛と咳嗽増悪を来した症例を経験したので報告する。

症例は39歳の女性で、クラビットの薬剤アレルギーを有している。既往歴として、躁鬱病にて当院と他院の精神科で多数の薬剤を服用している。また、胃食道逆流症(内視鏡grade M)にて5ヶ月前からPPIを服用していた。嗜好歴として1日10本、20年の喫煙歴がある。また、喘息にて気管支拡張薬を当院呼吸器内科より処方を受けている。

現病歴として平成17年9月30日より痰を伴わない咳が出現したため、呼吸器内科より喘息による咳としてフルタイド400が処方されたが、さらに咳がひどくなってきたため11月25日にフルタイド800に増量された。喘鳴はないものの咳が持続し、平成18年1月には咽頭痛も出現し、摂食不良となったため他院精神科に入院し、抗菌薬の点滴されるもさらに咽頭痛、咳嗽増悪したため、自己判断で、当科受診した。

初診時、喉頭ファイバーにて咽喉頭真菌症の所見がみられたため、フルタイドと抗菌薬の点滴を中止してもらい、フロリードゲルを1週間使用してもらった。1週間で、咳も消失し、咽頭痛も治まり、摂食も良好となった。また、喉頭ファイバー所見も改善されたので、治療終了とした。咳の患者にはこのような原因もあるので、注意を喚起する目的で報告することにした。